2026年11月14日（土）午後2～4：長野市権堂、
午後7時～8時半：上田市材木町公会堂。

「緩速ろ過」は誤解されてきた：中本信忠



①1968 菅平ダム湖完成⇒上田市水道水異臭味⇒1975.10.信大へ⇒自然界での浄化は生物群集の活躍：染屋浄水場でも生物が活躍⇒②殺藻剤添加中止⇒異臭味なくなる。凝集剤も悪いと助言。

③戦前は緩速ろ過が主流⇒戦後、急速ろ過が普及、文科省検定小学校教科書：急速ろ過の解説のみ。



④企業局の急速ろ過処理の水質は、水質が市営と比べ桁違いに悪く、常に施設更新を繰り返している。莫大な借金がある。転勤する公務員は施設管理できず、業者に委託。



⑤日本の水道の常識、水道水の基準は、急速ろ過の水が合格するようにしていた。

⑥（塩素殺菌された）安全な水とおいしい水とは違う。

⇒戦後：塩素殺菌

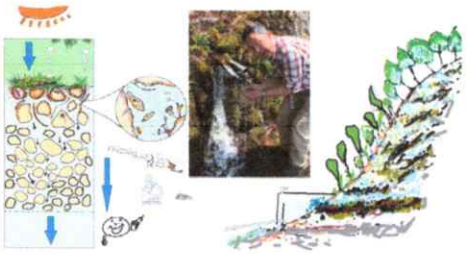
素手で食べる



切り傷をしないなら大丈夫。

その他参考資料は、Doctor 中本の EPS 資料室/古くも新しい水処理技術の紹介
https://eps.watervision.jp

⑦緩速ろ過処理は生物群集の活躍による浄化。山の湧水を人工的につくる仕組み。



⑧浄水場では砂ろ過池を上から下へ水を流し、砂面近くで生物群集が浄化している。そのろ過速度は1日に5m/日。染屋の780m2 のろ過池 1 池で 3,900m3/日できる。染屋には 13 池あり 12 池使うとすると、46,800m3/日できる。石舟にも5池ある。過大の施設。ろ過池の数は半分で良い。水利権の関係で水をつくれない。



⑨急速ろ過は、水質が悪く、精密機器の施設維持は業者依存。膜処理は莫大な経費がかかる。設備更新を繰り返し、借金が増えた。長野県企業局は、上田市の緩速ろ過の浄化能力が大きく、維持管理経費が廉価なのに注目した。雨が降らず、水に苦労して水源開発してきた上田市を頼ろうとした。



⑩長野市は、災害時、どうやって、水を確保するの。



善光寺平、千曲川沿いに発達した市街地。伏流水が豊富。それを汲み上げ、酸素不足で水質が悪ければ、砂利ろ過して、浄化すれば問題ない。

⑪長野市は、緩速ろ過に戻せば、水質が良く、自分らで維持管理でき、水道料金は廉価になる。小規模分散なら、管路が細く、地元の業者で緊急時に対処できる。

https://youtu.be/0g4M2Y3G11w
このプリントの動画解説 7分 26 秒